

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104 - 151	小学校	算 数	算 数	4 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 422 算数 423	小学算数4上 小学算数4下		

1. 編修の基本方針

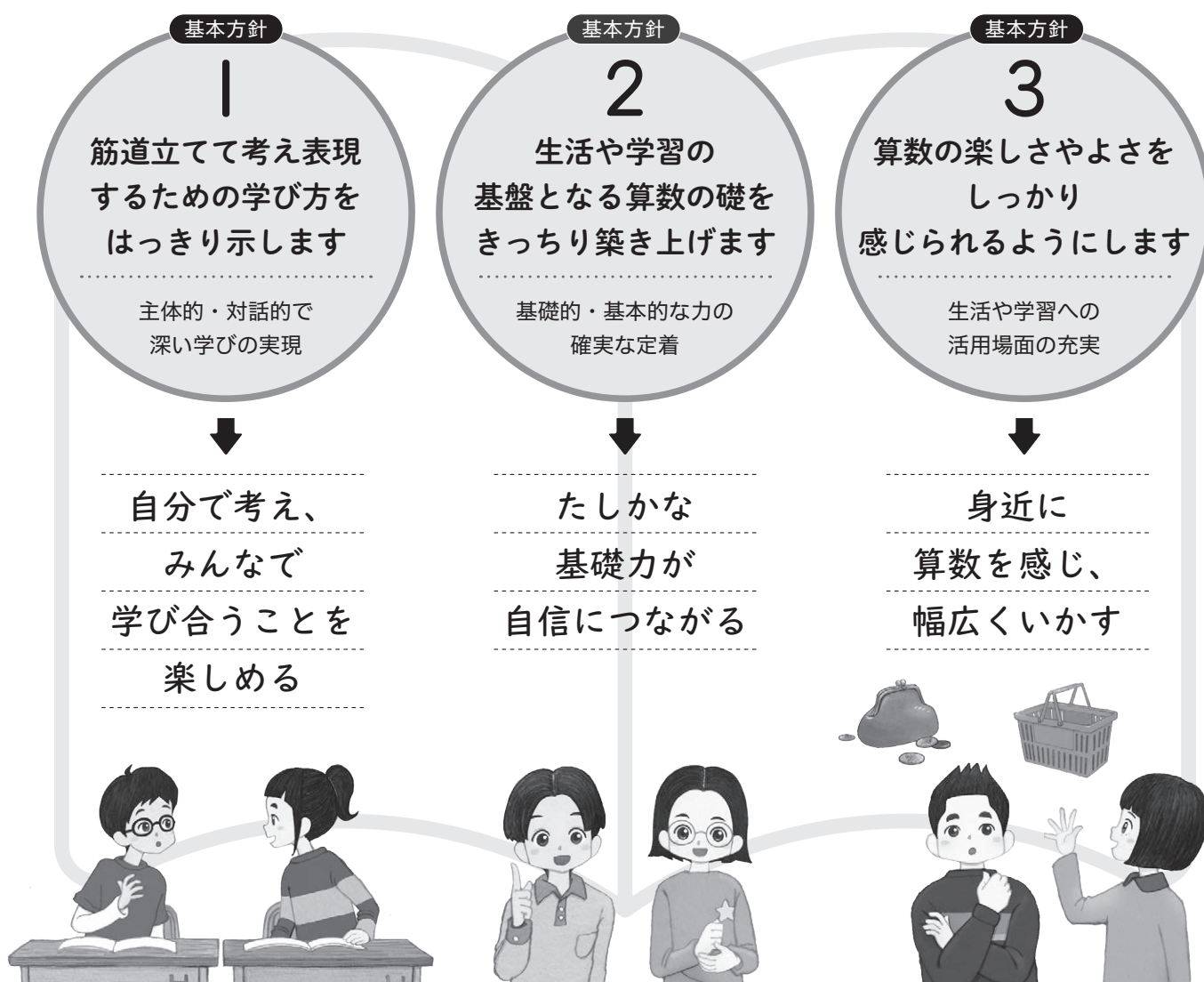
—子どもたちの「確かな資質・能力」をはぐくむ算数の学び—

数学的な見方・考え方を働かせた

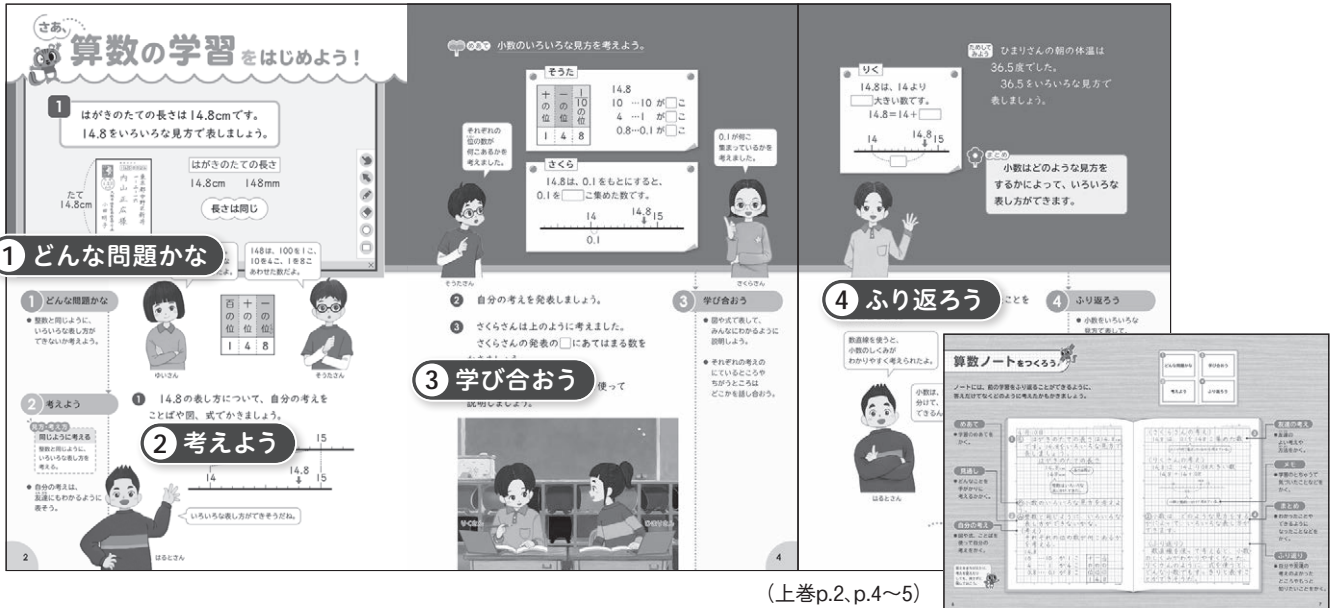
「わかる・できる・つなげる・いかす」数学的活動の充実により

「確かな資質・能力」が育つように…

私たちはこの教科書が、そのたすけとなることを心から願って編修しました。



1 算数の学び方をていねいに示しています



(上巻p.2,p.4~5)

(上巻p.6~7)

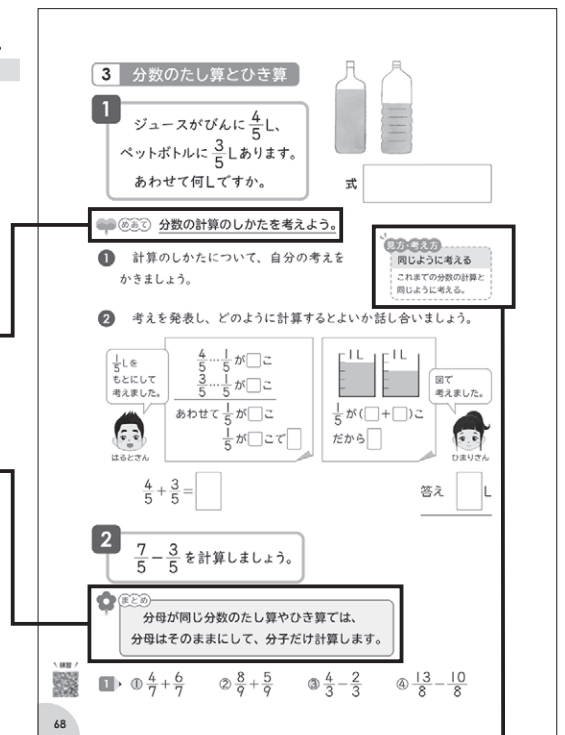
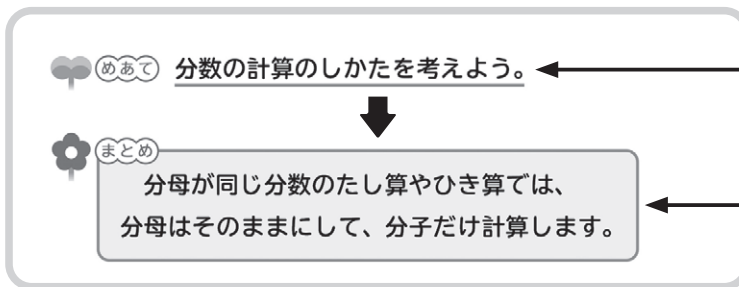
上巻の巻頭の折込みを開くと目に飛び込んでくるのは黒板の問題に取り組む子どもたち。

なんだか楽しそう、これから始まる算数の学習が楽しみだ、と期待がもてるオープニングです。

この巻頭は、問題解決型の算数の学び方を具体的な問題とともに示し、算数の学習の進め方がわかるようになっています。さらにノートの書き方も例示し、算数の学習へと導く役割を果たします。

2 「めあて」と「まとめ」で学習過程を可視化します

子どもたちが主体的に学習を進められるように、毎時間に「めあて」と「まとめ」を設け、その時間の学習の流れがわかるようにしました。先生方の授業づくりの参考にもしていただけます。また、子どもたちの自宅学習のサポートにもなります。

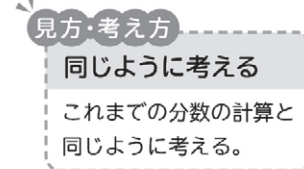


(下巻p.68)

3 「見方・考え方」で筋道立てて考えられます

「めあて」の近くには、見通しを立てたり、筋道立てて考えたりするための着眼点を「見方・考え方」として配置するようにしました。ただ答えを求めるだけでなく、数学的な見方・考え方を働かせることを意識することによって、いっそう学びが深まります。

上段には汎用的な見方・考え方、下段には各場面に応じた具体的な視点を示しています。

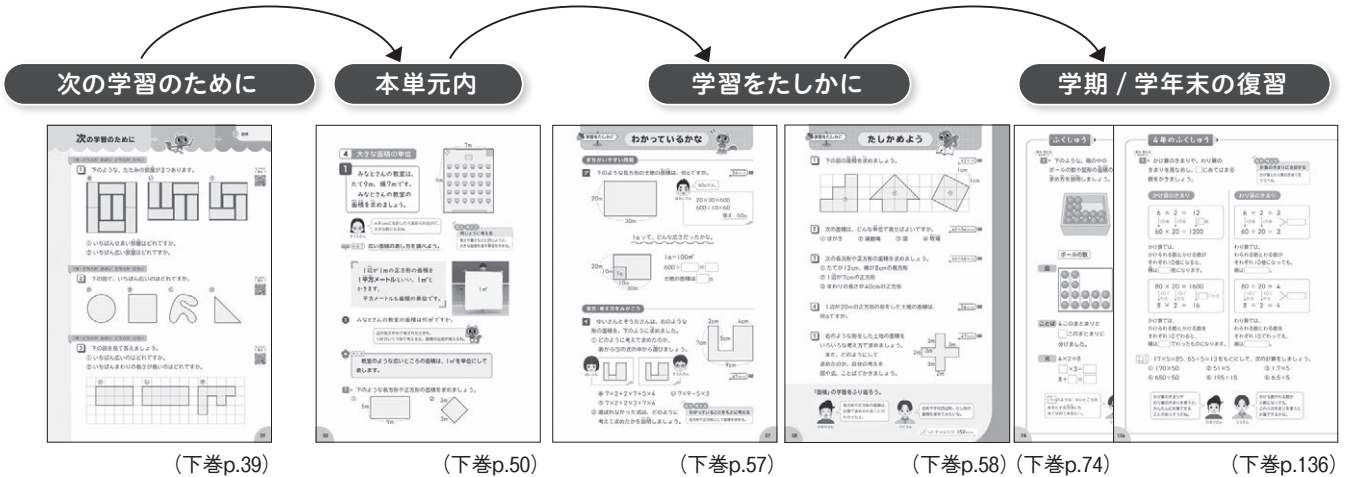


2 生活や学習の基盤となる算数の礎をきっちり築き上げます

基礎的・基本的な力の確実な定着

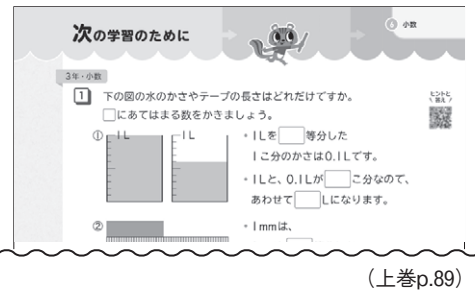
1 学習内容をくり返し取り上げて定着をはかります

大切な算数の学習内容は、「次の学習のために」での既習事項の復習から始まって、本単元内できっちり学習、単元末の「学習をたしかに」で確認、と着実に学習を進めていきます。さらに学期・学年末には「ふくしゅう」、「4年のふくしゅう」でもう一度確認する機会を設け、学習内容の定着をはかります。



2 「次の学習のために」 既習内容が確認できます

「次の学習のために」では、次の単元に関連した既習事項を確認することができます。基礎的・基本的な知識や技能の習得だけでなく、学習の根底となる思考力・判断力・表現力も確かめられるようにしています。また、各問題には、どの学年のどの単元で学習した内容かを示しています。



3 「学習をたしかに」 苦手の克服と基本の確認をはかります

「わかっていかな」と「たしかめよう」からなる「学習をたしかに」を単元末に設置しました。子どもがまずきや見方・考え方の成長を意識した内容で構成しています。

学習をたしかに

わかっていかな

まちがいやすい問題

子どもたちがつまづきやすい内容を再度取り上げ、きちんと定着・確認できるようにしています。

見方・考え方をみがこう

単元で培った「見方・考え方」をもう一度取り上げます。

「わかっていかな」の学習をふり返ろう。

これで、たし算、ひき算、わり算、かけ算、わり算の計算方法を学習したことになった。

たしかめよう

単元で学習した基礎的・基本的な内容を確認します。

一部の問題では、単元の内容を用いて理由や方法を説明する記述式問題を扱い、数学的な思考力や表現力を伸ばすようにしています。

単元末に子どもたちの振り返りの言葉を入れ、主体的に学習に取り組む態度を示しています。

(上巻p.42~43)

3 算数の楽しさやよさをしっかり感じられるようにします

生活や学習への活用場面の充実

1 「使ってみよう」で日常生活に算数をいかします

学習したことを日常生活と結びつけて、活動を通した学びを進めることで、算数を身近に感じることができます。体を動かして算数を感じることは、算数に苦手意識のある子どもにも楽しい時間となるでしょう。



(下巻p.23)

2 「算数マイトライ」は個に応じた学習内容を提供します

家庭学習や学校での予備時間などに利用できる題材を豊富に用意し、個に応じ、個を伸ばす学習の充実をはかりました。

しっかりチェック

単元の練習問題からつながる基礎・基本を確かめる問題。難易度別構成なので習熟度別学習指導等のきめ細かな指導にも利用できます。

ぐっとチャレンジ

もっとジャンプ

じっくり考えて取り組みたい問題、ちょっと手応えがあり数学的な面白さを感じ得る問題を多数取り上げ、算数が得意な子どもや、もっと学習したい子どもにも対応できるようにしています。



(上巻p.137)

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> 「さあ、算数の学習をはじめよう！」や「教科書の使い方」などでは、算数の学習の進め方を知らせ、真理を求める学習態度が育てられるようにしています。(第1号、第2号) 	上 p.2～10
本編	<ul style="list-style-type: none"> 「折れ線グラフと表」では、他教科(理科)と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身に付くようにしています。(第1号) 「およその数」や「面積」では、他教科(社会科)と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身に付くようにしています。(第1号) 子どもの考えを表現する場面や活動する場面では、男女の平等に配慮し、男女区別のない役割を意識した場面を提示し、公平な立場で他者と接するようにしています。(第3号) 動植物に関する題材や、環境・防災教育につながる題材を通して、生命を尊ぶ精神や、環境保全・防災に寄与する態度が養えるようにしています。(第4号) 	上 p.46～48 上 p.78～83 下 p.53～55 上 p.27～29 上 p.72 下 p.52 上 p.57～58 上 p.126～129
自分でみんなで	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程において、自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだり、数学的な妥当性を観察したりする場面を例示することにより、自他の敬愛と協力を重んじることを大切にしています。(第2号、第3号) 	上 p.51～53 下 p.47～49
使ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを身の回りで活用する活動を取り上げ、算数と生活との関連が実感できるようにしています。(第2号) 	上 p.86・97 下 p.56
なるほど算数	<ul style="list-style-type: none"> 先人たちが培ってきた算数に対する努力にも関心が持てるような話題を掲載し、我が国の伝統・文化に親しみ、それを大切にする気持ちが持てるように配慮しています。(第5号) 	上 p.18
巻末	<ul style="list-style-type: none"> 「算数マイトライ」では、一人ひとりの子どもの学習状況に幅広く柔軟に対応できるような題材を集め、子どもの主体性を重視し、自主及び自律の精神が養えるように配慮しています。(第2号) 	上 p.137以降 下 p.141以降

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 だれも見やすく使いやすい紙面への配慮

- カラーユニバーサルデザインに配慮しました
図形に使う色数を抑える、グラフの色は見分けやすい色にするなど誰にとってもわかりやすい図版、目にやさしい色づかいになるよう配慮しました。
- 全ページユニバーサルデザインフォント（UDフォント）です
視認性の高いUDフォントを教科書体にもゴシック体にも採用しました。また、極力色文字を使わないようにしています。
- 文節で改行しているの、文意がとりやすくなっています
- 当該学年以上の漢字には、ページ初出ごとにルビを振りしました

3 右の表は、全国と福岡県の小学4年生の児童の数を表したものです。これらの数は、どのようにがい数で表せばよいですか。

小学4年生の児童の数（人）	
全国	1062900
福岡県	47677

1 そうたさんは、上の表を見て、次のようにいました。そうたさんは、どのように考えましたか。

全国の小学4年生の児童の数は、約1100000人、福岡県は、約48000人だよ。

何の位の数字を四捨五入したのかな。

どうように四捨五入したのかを考えよう。

(上巻p.83)

2 人権上の配慮

男子、女子などの性による服装や役割の固定化がないように配慮しました。また、協働の場面では、性別に関係なく、みんなで協力している姿を表現しました。

3 今日的課題への取り組み

- 防災教育との関連
防災・減災への意識を高める題材を取り上げています。
- 道徳教育との関連
問題解決の場面では、他者の多様な考えを尊重し、話し合いを通してよりよい考えを作り上げていく展開を重視して、道徳性を養うことに配慮しています。

学年とけがの種類 (人)

学年	けが	すりきず	ねんざ	切りきず	打ばく	つき指	合計
1年							
2年							
3年							
4年							
5年							
6年							
合計							

この表はどのように見たらいいかな。

6年	打ばく	運動場	すりきず	ねんざ
1年	すりきず	ろうか	1年	
2年	すりきず	中庭	2年	

2 上の表を見て、わかったことを発表し、話し合おう。

表をくふうすると、1つの表から2つのことが同時にわかります。

けがをふせぐために、どこにどんな安全グッズをすればいいかな。

(上巻p.58)

4 ICTの活用

- デジタルコンテンツ
動画・アニメーションや自分で操作できるコンテンツ、計算ドリルや問題のヒント表示など、さまざまな種類のデジタルコンテンツを数多く用意しました。該当する箇所と目次に二次元コードを掲載し、簡単にアクセスできるようにしています。
- プログラミング教育
プログラミング的思考を育むために、プログラミングと日常生活を結びつけて取り組むことのできるページ「レッツ プログラミング」を巻末に設けました。
- デジタル教科書、教材を発行します

1 シロナガスクジラの体量は96t、ザトウクジラの体量は24tです。シロナガスクジラの体量はザトウクジラの何倍ですか。

シロナガスクジラ (t)

ザトウクジラ (t)

0 96 24 1 □ (倍)

それぞれの□に値を入れよう。

(デジタルコンテンツの例)

5 造本上の工夫

上下巻分冊構成にし、体に負担がかからないように配慮しました。

6 先生方の教材研究、授業準備の支援

各時間の要点や板書例、評価規準などを掲載する朱書編、指導案や単元の解説を掲載する研究編、評価問題やワークシートなどを収めた資料編、デジタルデータ集などからなる教師用指導書を発行し、日々の授業をサポートします。

レッツ プログラミング

すぐろくのルールを園に表そう!

スタート (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

すぐろくは、次のようなルールで遊びます。

すぐろくのルール

- ① さいころをふって、出た目の数だけ進む。
- ② 止まったマスに指示があったら、したがう。
- ③ ゴールしたら終わり。

右のように、手順を整理して表した図を「フローチャート」といいます。アからコにあてはまることばを、アからコにあてはまることばを、アからコにあてはまることばを選んで、すぐろくのフローチャートを完成させましょう。

さいころをふる [] 手進む []

マスの指示にしたがう []

さいころの目が何か []

マスに指示があるかどうか []

スタート

くま(1)→うさぎ(2)→あひる(3)→いぬ(4)→ねこ(5)→うさぎ(6)→あひる(7)→いぬ(8)→ねこ(9)→うさぎ(10)→あひる(11)→いぬ(12)→ねこ(13)→うさぎ(14)→あひる(15)→いぬ(16)→ねこ(17)→うさぎ(18)→あひる(19)→いぬ(20)→ねこ(21)→うさぎ(22)→あひる(23)→いぬ(24)→ねこ(25)→うさぎ(26)→あひる(27)→いぬ(28)→ねこ(29)→うさぎ(30)→あひる(31)→いぬ(32)→ねこ(33)→うさぎ(34)→あひる(35)→いぬ(36)→ねこ(37)→うさぎ(38)→あひる(39)→いぬ(40)→ねこ(41)→うさぎ(42)→あひる(43)→いぬ(44)→ねこ(45)→うさぎ(46)→あひる(47)→いぬ(48)→ねこ(49)→うさぎ(50)→あひる(51)→いぬ(52)→ねこ(53)→うさぎ(54)→あひる(55)→いぬ(56)→ねこ(57)→うさぎ(58)→あひる(59)→いぬ(60)→ねこ(61)→うさぎ(62)→あひる(63)→いぬ(64)→ねこ(65)→うさぎ(66)→あひる(67)→いぬ(68)→ねこ(69)→うさぎ(70)→あひる(71)→いぬ(72)→ねこ(73)→うさぎ(74)→あひる(75)→いぬ(76)→ねこ(77)→うさぎ(78)→あひる(79)→いぬ(80)→ねこ(81)→うさぎ(82)→あひる(83)→いぬ(84)→ねこ(85)→うさぎ(86)→あひる(87)→いぬ(88)→ねこ(89)→うさぎ(90)→あひる(91)→いぬ(92)→ねこ(93)→うさぎ(94)→あひる(95)→いぬ(96)→ねこ(97)→うさぎ(98)→あひる(99)→いぬ(100)→ゴール

(下巻p.134)

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

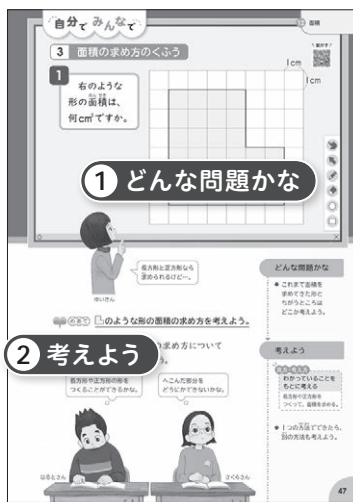
※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104 - 151	小学校	算 数	算 数	4 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号		※教科書名	
116 日文	算数 422 算数 423		小学算数4上 小学算数4下	

1. 編修上特に意を用いた点や特色

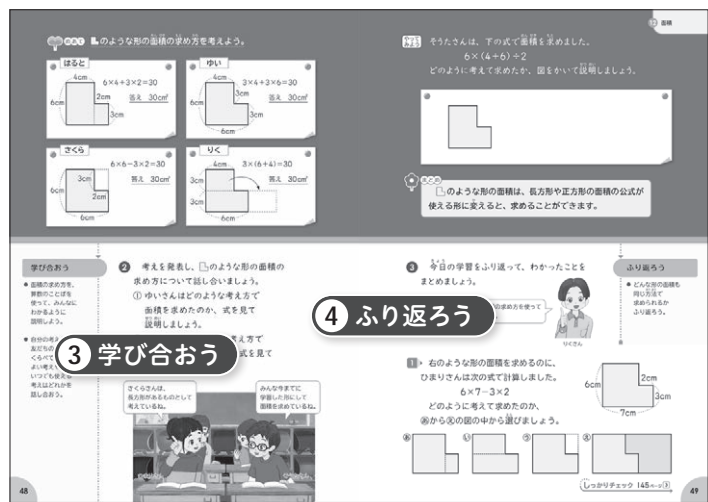
自分で考え、みんなで学び合うことを楽しめる

① 「自分で みんなで」で、学習の流れをナビゲートします

「自分で みんなで」は、問題解決型の学習過程を具体的に示すページです。各ページの側注に学習のステップを示すことで、「子どもによる主体的な算数の学び」を実現できるようにしています。また3ページにわたる黒板の図は、板書例としてもご利用いただけます。



(下巻p.47)



(下巻p.48～49)

② 学習過程を明確にします

上巻巻末の付録、切り離して使える「学び方ガイド」は、問題解決型の学習過程と学習を進める際の着眼点をコンパクトにまとめています。算数の学習を進めるための手がかりとして使い、教科書内の「めあて」「まとめ」と合わせて使うことで、学習過程をより明確にできます。



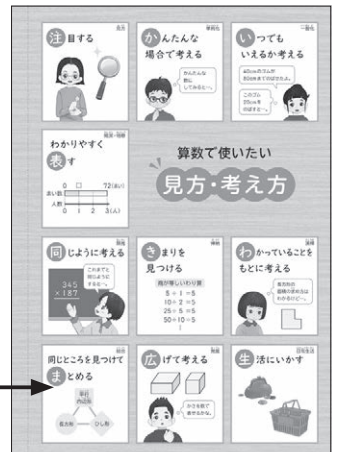
「学び方ガイド」(巻末付録)

③ 思考力・表現力が育ちます

算数で使いたい見方・考え方を、巻末の「学び方ガイド」の裏面にカルタのように並べました。

いつでも参照することができるので、数学的な着眼点に気づき、思考力・表現力を身につけるのに役立ちます。なお、各カードの右上には、帰納、演繹など、指導者や保護者向けの観点も示しています。

見方・考え方
計算のきまりに注目する

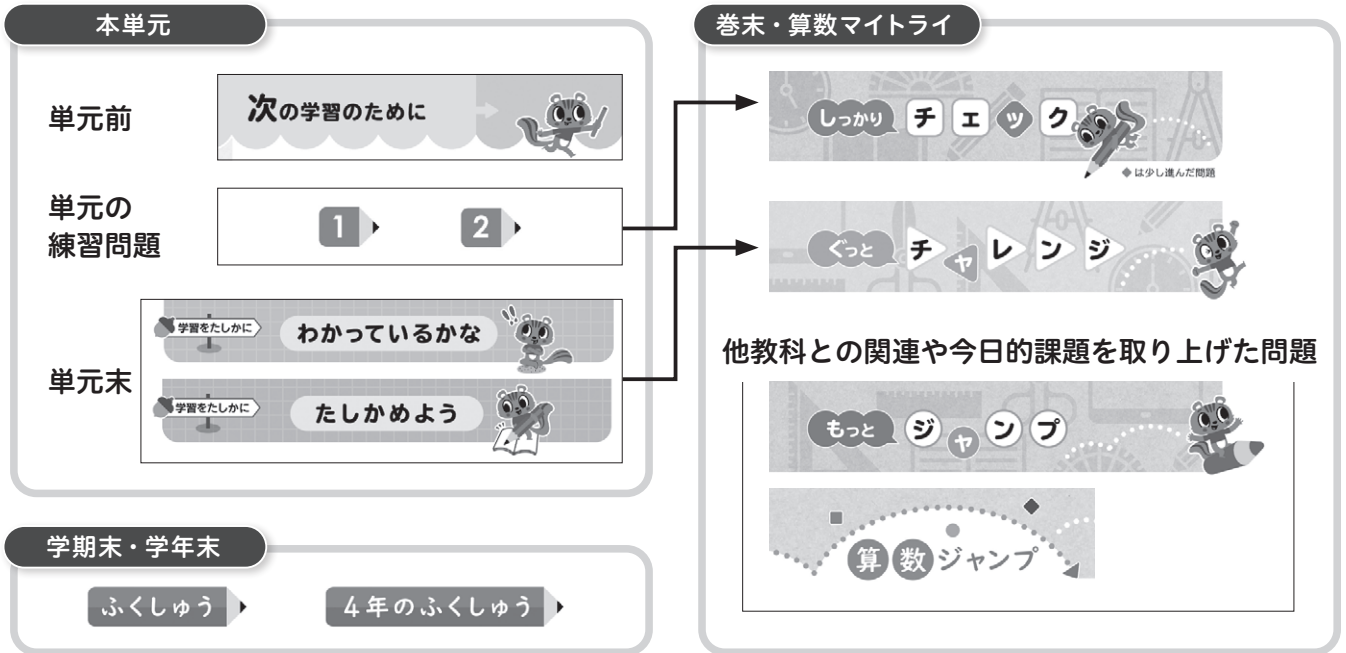


算数で使いたい見方・考え方 (巻末付録)

2 たしかな基礎力が自信につながる

1 自分に合った問題で基礎力をよりたしかにできます

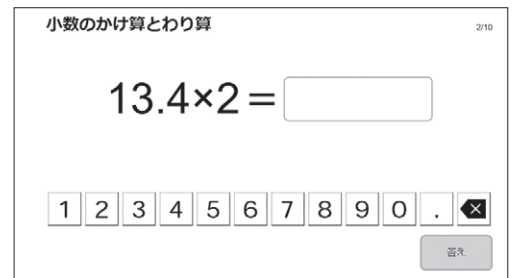
新しい単元に向けての予習・復習か、今日学習した内容の練習や確認か、もう少し手応えのある問題や今日的な課題に関連する応用的な問題に取り組みたいか……。理解度、学習の目的に合わせてさまざまなジャンル・難易度の問題を掲載しました。



2 ICTで学習を助けます

教科書紙面にある二次元コードを読み取って、ウェブ上のさまざまなデジタルコンテンツをご利用いただけます。主体的に学習したいという気持ちをサポートしました。

- **自分で答え合わせができます**
「次の学習のために」に対応するコンテンツでは、各問のヒントと答えが表示されるので、予習・復習、自宅学習に役立ちます。
- **同じ型の計算問題に取り組めます**
教科書で学習した計算の型は練習問題で確認しますが、それと同じ型を使った計算問題のドリルを用意しました。採点機能がついているので自分で理解度がはかれます。

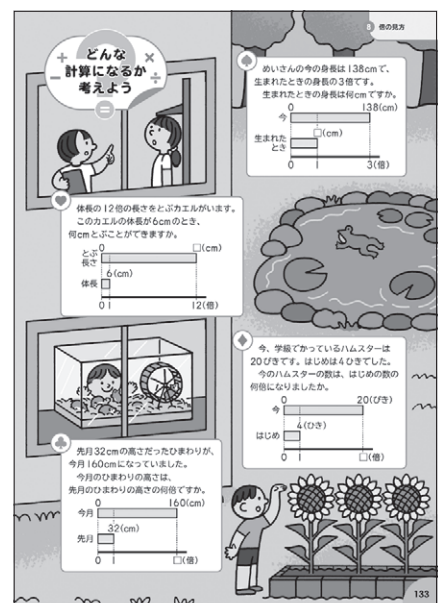


デジタルコンテンツの例 (小数のかけ算とわり算のドリル)

3 「倍」が単元になりました

3年、4年は「倍の見方」、5年は「倍を表す小数」、6年は「倍を表す分数」という新単元を設けました。2つの数量の関係や数直線の読み方、かき方を学習する独立した単元です。高学年の難関教材である「割合」にスムーズに入れるように、系統立てた構成になっています。

- **「どんな計算になるか考えよう」**
各学年とも倍の単元の単元末には、倍に関する演算決定の問題を用意しました。数直線の読み取りの復習や、倍の意味理解を深めるのに役立ちます。



(上巻p.133)

3 身近に算数を感じ、幅広くいかす

1 身近な疑問や今までの学習が課題の発見を促します

単元アプローチ

新しい単元に取り組む際の学習への素地づくりとして、身の回りの事象や既習事項、物を操作して考える内容などを題材に、ストーリー性やビジュアル性のある導入ページを用意しました。

単元での学習の課題を自ら見つけて意欲的に取り組める、数学的な問題発見・解決の過程を重視した単元構成になっています。



(下巻p.6)



(下巻p.94)

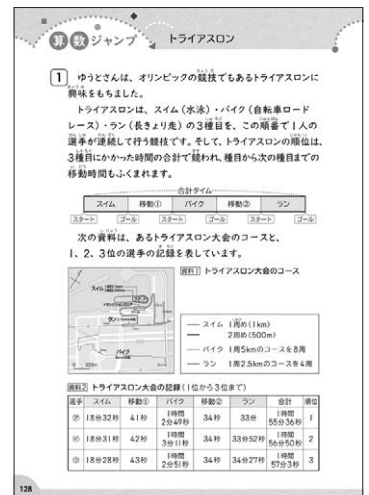
2 日常生活と算数をつなげます

使ってみよう

より実感的に算数を学習して算数の楽しさやよさを感じられるようにするため、作業的・体験的な活動や学習したことを実際場面に活用する活動の充実を図っています。ここでは、どのように活動を行うのかを具体的に示すとともに、手順や準備物を掲載して、活動への意欲を高め、進んで生活にいかそうとする態度が身に付くようにしています。

算数ジャンプ

これまでに身に付けた知識・技能、数学的な思考力・表現力を用いて取り組める、SDGsや防災などの今日的な課題や、他教科とのつながりを意識した探究的な問題を取り上げています。



(下巻p.128)

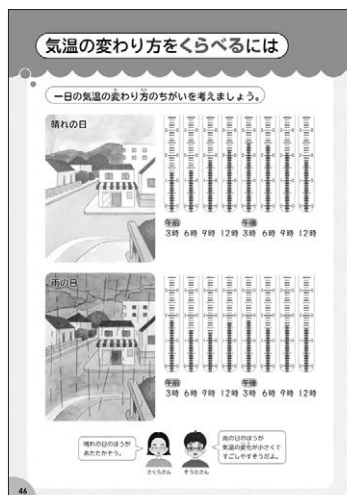
3 算数の世界がもっと広がります

「Dデータの活用」領域の教材

与えられたデータを表やグラフに表したりよみ取ったりするだけでなく、身の回りの事象について、適切な表やグラフを用いて表現したり観察したりする活動も取り上げています。

なるほど算数

その単元に関連した、算数に関する豆知識的なコラムです。算数にもつながる数学界の偉人や伝統的な和算の紹介など、授業とは違う視点から、算数の世界が広がります。



(上巻p.46)



(上巻p.61)

2. 観点別教科書の特色表

教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、次の3点を柱に編修しました。 <ol style="list-style-type: none"> ①筋道立てて考え表現するための学び方をはっきり示す。 ②生活や学習の基盤となる算数の礎をきっちり築き上げる。 ③算数の楽しさやよさをしっかり感じさせる。
学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示された算数科の目標達成を目指し、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通じた学習となるようにしました。
主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「さあ、算数の学習をはじめよう」で、学習の流れをわかりやすく示しました。(上p.2～5) 子どもの学習意欲の喚起と主体的な学びを促すようにして、これから1年間の算数の学習への期待を抱かせるようにしています。さらに「算数ノートをつくろう」では、学びの過程の記述方法を紹介して言語活動を促し、算数の学習の進め方をわかりやすく解説しています。(上p.6～7、下p.2～3) 単元アプローチでは、日常生活や既習事項を使って「おや?」と思う場面を設定し、課題発見につながるようにしました。子どもが興味・関心をもてる素材を選定しています。(上p.90、下p.94など) 「自分で みんなで」では、問題解決の過程で自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだりする場面を例示しました。(上p.27～29、下p.83～85など) 問題解決的な学習過程と、学習を進めていく際の着眼点がより明確になるように、巻末には、切り取って使える「学び方ガイド」を添付しました。さらにその裏面には、「算数で使いたい見方・考え方」を10の観点に整理してわかりやすく提示し、子どもだけでなく、先生や保護者にも算数の学習を進める上で根幹となる「見方・考え方」が伝わるようにしています。(上巻巻末付録)
基礎的・基本的な力の育成・定着	<ul style="list-style-type: none"> 大切な学習内容は繰り返し学習できるように構成しました。単元前の「次の学習のために」、本単元、単元末の「学習をたしかに」、学期ごとの「ふくしゅう」「4年のふくしゅう」を通して、基礎的・基本的な知識や技能の習得・定着を図ります。(上p.106～108、下p.136～140など) 各単元とも単元末に「まちがいやすい問題」を設け、つまづきやすい内容をもう一度ふり返り、知識・技能が確実に定着するようにしました。(上p.87など)
学びの系統性	<ul style="list-style-type: none"> 「次の学習のために」では、新しい単元での学習内容と関連の深い既習事項を確認できるようにしました。各問題には学年と学習した内容を明示し、関連を明確にしました。 学期末、学年末の「ふくしゅう」では、各単元で出てきた「見方・考え方」を統合的に見つめなおし、今後の学習にもいかそうとする態度を養う問題を設定しました。(下p.74など)
知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> 各時間に「めあて」と「まとめ」を明示し、学習の流れをわかりやすくしました。 「倍」に関する内容を単元化し、3年から6年まで系統立てて配置しました。(上p.126～129) 巻末に「3年までに学習したこと(上p.162～163)」「4上までに学習したこと(下p.164～165)」を設け、今までに学んだ知識・技能をいつでもふり返れるようにしました。
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 単元内の随所に数学的な「見方・考え方」を提示し、数学的に思考・判断・表現する力が育つようにしました。(上p.84など) さらに単元末の「見方・考え方をみがこう」でも、もう一度ふり返る問題を設けました。(上p.87など) 子どもの発言などを用いて、問題解決の方法の見通しを立てたり、結果の見積もりを行ったりしながら学習を進めていくようにしました。 「学習をたしかに」、「算数ジャンプ」では、理由や方法などを説明する記述式の問題を扱いました。(上p.43、下p.130～131など)
主体的に学習に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 算数の楽しさやよさを感じられるように、「使ってみよう」では作業的・体験的な活動や、学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図っています。(下p.52など) 単元末にふり返りのコーナーを設け、単元で身につけた知識・技能やこれから学びたいことを子どもの言葉を通して伝えています。(上p.105など)
個別最適化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 「算数マイトライ」は、習得・活用・探究を意識した教材を豊富に用意し、また答えを掲載しているので、習熟に応じた自学自習も可能となっています。(上p.137～161など) 巻末「算数マイトライ」の「しっかりチェック」を、理解の段階に応じて問題が選択できるよう、難易度別に配列しました。(上p.138～147、下p.142～149) ドリルなど、自分で学習できるデジタルコンテンツを豊富に用意しました。
教育のICT化への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 全学年の巻末に「レッツ プログラミング」のページを設け、プログラミング的思考を養うための教材を用意しました。(下p.134～135) 紙面の二次元コードを読み取り、さまざまなデジタルコンテンツにアクセスできます。 指導者用デジタル教科書(教材)、学習者用デジタル教科書や教材も発行します。

特別支援教育、ユニバーサルデザインへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の色を統一し、色文字の使用を抑えて読みやすい落ち着いた紙面にしました。 ・可読性の高いユニバーサルデザインフォントを全面的に使用しています。 ・当該学年以上の配当漢字には、ページ初出で振り仮名をつけました。
道徳教育、他教科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科と関連して「自分で みんなで」では、自分の考えを説明したり友だちの発表をきいて話し合ったりする場面を具体的に示し、互いを尊重し理解する態度を示しました。(下p.47～49など) ・1日の気温の変わり方、カードの設計図の書き方、トライアスロンなど、理科、図画工作科、体育科などの他教科と関連した題材を取り上げています。(上p.46、下p.130～131など) ・けがを防ぐポスターをつくるために、けがの記録を調べるというような、安全教育に関する問題を取り上げています。(上p.57～58)
伝統文化・国際理解への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・和算で取り上げられた兆より大きい数の読み方のような、日本の伝統文化に関する題材を取り扱っています。(上p.18) ・世界の人口、世界の筆算のような、国際的に視野の広がる題材を随所に取り上げています。(上p.12～15、上p.40)
判型、印刷、製本	<ul style="list-style-type: none"> ・B5判で、本文用紙に軽量化した再生紙を使用して、教科書の軽量化に努めました。また、1年～4年は分冊することにより、子どもの負担の軽減を図っています。 ・表紙は表面加工を施し、耐水性や堅牢性を考慮しています。 ・植物油インクを用いて印刷し、堅牢なあじろ綴り製本で開きやすくしています。

3. 対照表

配当 時数	単元名	学習指導要領・内容名	該当 箇所
			(上巻)
1	さあ、算数の学習をはじめよう!	第3学年の内容	2～7
8	1 一億より大きい数を表そう	A (1) ア (ア) イ (ア) 内容の取扱い (1) (3)	11～24
11	2 わり算のしかたをくふうしよう	A (3) ア (ア) (イ) (ウ) イ (ア) 内容の取扱い (2)	25～43
1	どんな計算になるか考えよう	A (3) ア (ア) イ (ア) 内容の取扱い (3)	44
13	3 グラフや表に表そう	C (1) ア (ア) イ (ア) D (1) ア (ア) (イ) イ (ア) 内容の取扱い (9) (10)	45～64
8	4 角の大きさをはかろう	B (5) ア (ア) (イ) イ (ア)	65～76
8	5 およその数で表そう	A (2) ア (ア) (イ) イ (ア)	77～88
13	6 小数のしくみを考えよう	A (4) ア (イ) (ウ) イ (ア)	89～105
1	ふくしゅう	A、B、D	106～108
11	7 わり算の筆算のしかたをさらに考えよう	A (3) ア (ア) (イ) (ウ) (エ) イ (ア) 内容の取扱い (4)	109～125
5	8 倍で大きさをくらべよう	C (2) ア (ア) イ (ア)	126～132
1	どんな計算になるか考えよう	A (3) ア (ア) 内容の取扱い (3)	133
2	9 そろばんで計算しよう	A (8) ア (ア) イ (ア)	134～136
			(下巻)
15	10 いろいろな四角形を調べよう	B (1) ア (ア) (イ) イ (ア) 内容の取扱い (7)	5～26
8	11 計算のきまりを調べよう	A (6) ア (ア) イ (ア) A (7) ア (ア) イ (ア) 内容の取扱い (6)	27～38
14	12 広さを表そう	A (6) ア (イ) イ (ア) B (4) ア (ア) (イ) イ (ア) 内容の取扱い (8)	39～58
10	13 分数のしくみを考えよう	A (5) ア (ア) (イ) イ (ア)	59～72
1	ふくしゅう	A～C	74～76
4	14 どのように変わるか調べよう	A (6) ア (ウ) イ (ア) C (1) ア (ア) イ (ア)	77～87
3	15 がい数で計算しよう	A (2) ア (ウ) イ (ア) 内容の取扱い (2)	88～92
14	16 小数のかけ算とわり算のしかたを考えよう	A (4) ア (ア) (イ) イ (ア) 内容の取扱い (5)	93～112
10	17 いろいろな箱の形を調べよう	B (2) ア (ア) (イ) (ウ) イ (ア) B (3) ア (ア) イ (ア)	113～127
3	算数ジャンプ	A～D	128～133
3	4年のふくしゅう	A～D	136～140

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104 - 151	小学校	算 数	算 数	4 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 422 算数 423	小学算数4上 小学算数4下		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
上 18	なるほど算数	2	A (1) ア (ア) (上記に関連して、兆より大きい数の位を扱います。)	0.5
上 149	ぐっとチャレンジ	1	A (3) ア (ア) (イ) (上記に関連して、9でわりきれぬ数のきまりについて考察します。)	0.25
上 151	ぐっとチャレンジ	2	B (5) ア (ア) (上記に関連して、360度より大きい角度を表す場合があることを知り、角の大きさへの理解を深めます。)	1
下 73	なるほど算数	1	A (5) ア (ア) (上記に関連して、30分をいろいろな大きさの分数で表すことを通して、大きさの等しい分数への理解を深めます。)	1
下 152	ぐっとチャレンジ	1	B (4) ア (イ) (上記に関連して、直角三角形の面積を考えることを通して、図形の面積への理解を深めます。)	0.5
下 156	もっとジャンプ	1	B (1) ア (イ) (上記に関連して、四角形の対角線の性質への理解を深めます。)	0.5
合計				3.75

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容